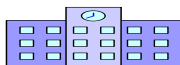


学校だより第3号 平成30年5月31日(木)

学校教育目標：自ら学び、心豊かでたくましい児童の育成



きざき



さいたま市立木崎小学校

児童数 847名

— 児童が目を輝かせて、  
明日の授業を楽しみにする学校 —

TEL048-831-2281

URL <http://kizaki-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail [kizaki-e@saitama-city.ed.jp](mailto:kizaki-e@saitama-city.ed.jp)



## いじめ防止と Grit (グリット)

校長 豊島 登

ずいぶんと昼間の時間が長くなりました。暑さに向かっていくこの時季は、疲れもたまりやすくなります。体調をくずさないようご注意ください。また、5月8日から16日の家庭訪問では、ご協力をいただきありがとうございました。学校と家庭が情報を共有し、同じ方向を向いて児童の教育にあたっていく上で、たいへん有意義な時間となりました。

さて、6月は「いじめ撲滅強化月間」です。いじめに対する意識は相当高まっているはずですが、依然としていじめとみられる原因で子どもが亡くなるケースが後を絶ちません。大切な命を落とすようなことは絶対にあってはならないことです。木崎小では、今月、「心のホットライン特別デー」を設けています。心配事がありましたら小さなことでも結構です。ぜひご相談ください。

私は、いじめの経験に関する調査結果を見ると、いつも疑問に思うことがあります。それは、いじめられたことのある人の割合といじめたことのある人の割合が同じにならないということです。いじめられたことがあるという人の方が多いのです。なぜこうした結果になるのでしょうか。それは、いじめた側が、その行為をいじめと認識していない場合があるからではないでしょうか。軽い気持ちでしたこと、言ったことでも、相手にとっては大きな傷となることがあります。いじめを防止するためには、された側の立場に立つことが必要なのです。

また、いじめの根源にある仕組みは、もともと脳に備え付けられているのだという脳科学者もいます(中野信子「ヒトは『いじめ』をやめられない」小学館新書)。それは、本来ヒトという種を維持するために、集団内部の“裏切り者”に対して制裁行動を発動させるためのものでした。ところが、その制裁行動が過剰に反応し、みんなと少し違うだけ、ちょっと目立つ行動や格好をしているだけのことにも発動してしまう現象、それがいじめなのだというのです。私たちがヒトである以上、いじめの問題に無関係な人はいないということです。すべての人が立ち向かい、克服していかなければならない問題なのです。

さいたま市教育委員会は、「子どもたちの未来のための PLAN THE NEXT」として「3つのG」を掲げています。①Grit「やり抜く力」で真の学力を育成する、②Global 国際社会で活躍できる人材を育成する、③Growth 一人ひとりの成長を支え生涯学び続ける力を育成する、の3つです。特に、①のGrit(グリット)は、知識・技能や思考力・判断力・表現力といった認知能力だけでなく、学びに向かう力や物事をやり抜く力といった非認知能力の育成を重視しています。これは人間としての幅を広げ、いじめ防止にも大いに関係します。日々の授業や学校行事をとおして、「自分を客観的に見つめながら自分のよさに気付く」「自信をもって困難な課題にも粘り強く取り組む」「失敗や苦境に対してもめげずに立ち直る」といった力を育てていきたいと考えています。